

いじめ・不登校問題の現状と本市の対応方針について

1. いじめについて

【田原市の認知件数】 ※R 7は1 2月末現在

	H 2 9	H 3 0	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
小学校	69	209	374	179	193	139	155	126	107
中学校	174	299	147	104	215	102	114	143	144

【田原市の状況】

- ・発見のきっかけとして小学校は保護者からの訴え(42%)、本人からの訴え(30%)、教職員等が発見(12%)、中学校は本人からの訴え(48%)、教職員等が発見(25%)、保護者からの訴え(17%)の順に多くなっている。
- ・冷やかしやからかい、悪口など言葉による態様が最も多い。
- ・中学校ではスマホや携帯電話等のSNSに関連したいじめもあり、継続的な指導をしている。

2. 不登校について

年度	田原市		東三		県		国	
	小	中	小	中	小	中	小	中
	出現率	出現率	出現率	出現率	出現率	出現率	出現率	出現率
R1	0.45	3.06	0.84	3.96	0.90	4.08	0.83	3.94
R2	0.43	3.35	1.06	4.41	1.06	4.29	1.00	4.09
R3	0.84	5.28	1.50	5.70	1.38	5.42	1.30	5.00
R4	1.40	6.54	1.77	6.75	1.84	6.40	1.70	5.98
R5	2.13	5.97	2.56	7.68	2.37	7.05	2.14	6.71
R6	2.57	6.26	調査中		2.64	7.52	2.30	6.80

【田原市の状況】

- ・小中学校ともに、この3～4年間で大きく増加している。
- ・不登校の要因として、家庭環境・貧困・虐待・集団生活への不適応、個々の発達障害等が考えられる。
- ・小学校では約40%、中学校では約60%の児童生徒が前年度から引き続き不登校となっている。ここ3年間では、小学5年生から6年生への不登校継続率が高い傾向で、新規では5年生に増える傾向がある。また学年が上がるごとに増加傾向が続く。
- ・一度不登校になると登校することが難しくなり、欠席日数が増える。
- ・1 2月末時点で5小学校では不登校児童がいない。
- ・出席日数が0日の児童生徒が2人いる。不登校児童生徒の中には、担任を始めとした学校の職員等とも会うことに苦勞する家庭がある。そのためスクールソーシャルワーカーが対応するケースが増加している。

### 3. 教育サポートセンターについて

#### (ア) 教育相談について ※1月末現在

	相談員	コーディネーター	運営員	カウンセラー	計
不登校	146	0	65	199	410
いじめ	12	0	0	13	25
学業・進路	83	165	0	88	336

- ・学校で起きたいじめや不登校などの諸問題に対して、経験を生かした客観的なアドバイスをすることで、学校の対応に一つの指針を示している。
- ・カウンセラーへの発達上の問題に関する相談が107件と近年増加傾向である。

#### (イ) 教育支援ルーム「くすの木ルーム」について

##### 【在籍児童生徒数】 ※12月末現在

	R4	R5	R6	R7
小学生	3	6	7	11
中学生	11	13	12	7
1年生	0	3	5	1
2年生	6	4	4	3
3年生	5	6	3	3

- ・自宅から出られない、登校できない児童生徒が、多くの人との触れ合いを通して生活習慣の改善や自分の人生を考える場となっている。
- ・運営員の助言等により、不登校の子を育てる親の悩みや不安を軽減する場ともなっている。
- ・小学生の入室が増えている。(現在本入室11名、体験入室2名)

### 4. 本市の対応方針について

「いじめ」と「不登校」は表出の仕方が違うだけで、どちらもその根底には児童生徒の満たされない心があると考えている。そのため、児童生徒に寄り添った対応をするようをお願いしている。

また、家庭環境の問題も大きく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、子育て支援課等、関係機関と連携を図りながら、児童生徒だけでなく、その保護者にも寄り添い家庭環境の改善にも取り組んでいる。

- ・「いじめ」については、だれもが加害者にも被害者にもなりえるものであるという認識を持ち、未然防止に取り組む。また、早期に適切な対応を行う。
- ・「不登校」については、学校に行かせることだけがゴールではない。その子の意思を尊重し、無理に登校することを促さない。また新たな一人を出さないこと、また不登校になってしまった児童生徒には寄り添った対応を行う。
- ・令和8年4月より、4中学校に「校内教育支援センター」を設置する。学びの選択肢を広げ、本人にとって最適な居場所が選べるよう「くすの木ルーム」、「家庭」、「教室(担任)」や「民間フリースクール」と連携していく。